(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第4814933号
(P4814933)
(45)発行日　平成23年11月16日(2011.11.16)　(24)登録日　平成23年9月2日(2011.9.2)

(51)Int.Cl.		F I		
G09F 13/04	(2006.01)	G09F	13/04	J
G09F 13/20	(2006.01)	G09F	13/20	D
B44C 5/08	(2006.01)	B44C	5/08	C

請求項の数 1　(全 10 頁)

(21)出願番号　特願2008-324846(P2008-324846)
(22)出願日　平成20年12月22日(2008.12.22)
(62)分割の表示　特願平10-280785の分割
原出願日　平成10年10月2日(1998.10.2)
(65)公開番号　特開2009-75614(P2009-75614A)
(43)公開日　平成21年4月9日(2009.4.9)
審査請求日　平成20年12月22日(2008.12.22)

(73)特許権者　391059850
山内　英樹
大阪府大阪市天王寺区烏ケ辻１丁目８番９－５１０号
(74)代理人　100087767
弁理士　西川　惠清
(74)代理人　100085604
弁理士　森　厚夫
(72)発明者　山内　英樹
大阪市天王寺区烏ヶ辻１丁目８番９－５１０号

審査官　宮本　昭彦

最終頁に続く

(54)【発明の名称】画面

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
平面状で光線が僅かに透過する素地の１枚よりなる画面において、該画面の平らな表面に描写されたものの一部を任意部分とし、該画面の裏面の前記任意部分以外の部分を遮光し、該画面の裏面に光線を照射して、前記画面の任意部分に光線を透過させると共に当該任意部分を蛍光顔料等の発光物質で発光させることを特徴とする画面。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、看板・表示板・絵画・写真・印刷・ポスター・漫画・グラフィック・デザイン・カラーポジ画像フィルム画（スライド用フィルム画）・イラストレーション・設計図・図・図案・模様・グラフ等のあらゆる分野の全ての静止画面に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来の看板・表示板・絵画・写真・印刷・ポスター・漫画・グラフィック・デザイン・カラーポジ画像フィルム画（スライド用フィルム画）・イラストレーション・設計図・図・図案・模様・グラフ等のあらゆる分野の静止画面の多くは一枚や一重の画面よりなり、その画面に表現・描写された物象は一枚の平面上に遠近法や明暗法などで遠近感や立体感を生み出しているに過ぎなかった。
【０００３】

また、貼り絵のように貼り重ねたものもあるが、素地は薄いものや不透明なものよりなり立体的に見えないものであった。

【０００４】

また、従来の看板等の中には一枚の透明な素地よりなる画面の裏面の全面に光線を照射させて該画面の全面を明るくしたものもあるが、平面的な画面の全面を明るくしただけでことさら平面的に見えて全く立体的画面ではなかった。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００５】

本発明は、画面中での例えば立体的な後光のさした神々しい神仏像や立体的に輝いた生気溢れて生き生きとした存在感のあるリアルな人物像などの従来不可能であった表現や再現を可能にすることを目的としている。また、例えば単なる平面的な色彩による光の描写でなく見る人に向かって本当の光を放つ神仏像など従来不可能であった画面上の表現の脱平面化を実現したものである。

【課題を解決するための手段】

【０００６】

請求項１の画面においては、平面状で光線が僅かに透過する素地の１枚よりなる画面において、該画面の平らな表面に描写されたものの一部を任意部分とし、該画面の裏面の前記任意部分以外の部分を遮光し、該画面の裏面に光線を照射して、前記画面の任意部分に光線を透過させると共に当該任意部分を蛍光顔料等の発光物質で発光させものである。例えば光線１９が僅かに透過する素地（紙・布・キャンバス・プラスチック板・陶磁器等）よりなる１枚の画面２５の裏面２８に、該裏面２８の任意部分（例えば後光がさした神仏像或いは生気溢れる人物の顔の部分２７の裏部分２９）以外の部分を遮光２４して、該画面２５の裏面２８に光線１９を照射させると、画面２５の表面２６の神仏像部分のみ或いは人物の顔の部分２７のみが後光がさして神々しく光り輝く神仏像或いは生気溢れてまぶしいほどの生き生きとした存在感ある人物の顔となって立体的に浮き出て見えて且つ目立つことになる。また、上記光線１９を強くすると、見る人に向かって本当の光りを放つ神仏像など画面上の表現の脱平面化を実現する。

【０００９】

また、例えば、上記した種々の各画面において、該画面の任意部分（例えば後光がさした神仏像或いは生気溢れる人物像の部分或いは宣伝したい商品像など）に、蛍光顔料などの発光物質を添加或いは混入或いは塗着させると、例えば該発光物質が蛍光顔料ならば画面の表面や裏面から受けた可視光線や紫外線で蛍光を放ち、或いは該発光物質が自発光物質ならば、その自発光物質に添加されている放射性同位元素の刺激で常時発光して、後光がさして神々しく輝いて鮮明な神仏像や鮮明に輝いて生気溢れて生き生きとしたリアルな人物像や鮮明に輝いて浮き上がって目立つ商品像となり、各画像は立体化する。

【００１０】

尚、上記した種々の画面における裏側の画面に実施すれば、本画面の表面の裏より発光するので底光りした発光になり、例えば人物の肌などが生き生きした生気溢れてリアルな肌になり、且つ浮き上がって見えるので立体化する。

【発明の効果】

【００１１】

本発明にあっては、光線が僅かに透過する素地の１枚よりなる画面において、該画面の裏面の任意部分以外の部分を遮光し、該画面の裏面に光線を照射させるための光源を備えたことで、例えば画面の表面の神仏像部分のみ或いは人物の顔の部分のみが後光がさして神々しく光り輝く神仏像となり、或いは生気溢れてまぶしいほどの生き生きした存在感ある人物の顔となって立体的に鮮明に浮き上がって見える。また、目立つことになり人目を引きつけ宣伝機能を格段に向上させる。このように制作者は従来不可能であった画面中に例えば絵画ではない本当の光の後光がさした神々しい神仏像や生気溢れて生き生きとした存在感のある人物の顔等を立体的に表現や再現することができる。また、上記の光線を強

くすると、例えば単なる平面的な色彩による光の描写でなく見る人に向かって本当の光を放つ神仏像など、従来不可能であった画面上の脱平面化を実現することができる。

【００１２】

また、画面の任意部分を、蛍光顔料などの発光物質で発光させることで、該画面は、例えば該発光物質が蛍光顔料ならば画面の表面や裏面から受けた可視光線や紫外線で蛍光を放ち、或いは該発光物質が自発光物質ならば、その自発光物質に添加されている放射性同位元素の刺激で常時発光して、例えば後光がさして神々しく輝いて鮮明な神仏像や鮮明に輝いて生気溢れて生き生きとしたリアルな人物像や鮮明に輝いて浮き上がって目立つ商品像となり、各画像は立体化する。

【００１３】

尚、上記した種々の画面（例えば上記実施例の画面の裏面２８）に実施すれば、本発明立体画面の表面の裏より発光するので底光りした発光になり、例えば人物の肌などが生き生きした生気溢れてリアルな肌になり、且つ浮き上がって見えるので立体化し、制作者は上記した各実施例に併用すれば上記した各実施例での種々の効果をより一層高めることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１４】

本発明の実施例を図面に基づいて説明する。ただし、下記の各実施例は説明のためのもので、もとよりそれによって制限を受けるものでなく、本発明の精神を逸脱しない限りさらに種々の変更を許容しうることは勿論である。

【００１５】

第１実施例では、図１（ａ）に示すように任意の画像例えばたばこの箱１ａの正面像とその背景２を描写した画面３ａの表面に、該画面３ａと同じ面積で任意の厚みの光線が透過する素地、例えばガラス板の表面に前記したたばこの箱１ａと同じたばこの箱１ｂのみを描写した画面３ｂを重ねて、図１（ｂ）に示すように１枚の立体画面としたものである。尚、画面３ａの素地は不透明板或いは光線が透過する（僅かの透過も含む）素地で構成するものである。このようにすることで、透明なガラス板の透明度によって箱の画像も重なって見えるので、静止や移動する人間の目にはたばこの箱１ｂが背景２より浮き上がって見え且つ画面のたばこの箱１ｂの正面の幅と高さと同時にその厚さも感じることになり、遠近感と立体感ある画面となる。

【００１６】

第２実施例では、図２（ａ）に示すように例えば前後に交差している２本の棒を描写するときに、前の棒４ｂは描写せずに後の棒４ａのみ描写（この時前の棒４ｂによって重なる部分は描写しない）した画面５ａの表面に、後の棒４ａは描写せずに前の棒４ｂのみ描写した前記画面５ａと同面積の素地が透明板、例えばガラス板よりなる画面５ｂを重ねて図２（ｂ）に示すように１枚の立体画面としたものである。この場合、前の棒４ｂの画像と後の棒４ａの画像は重ならない。このようにすることで、透明板の透明度によりこの２本の棒の遠近感が構造的・物理的に明確に感じられ立体感ある画面となる。尚、画面５ａ，５ｂに更に複数枚の画面を重ねてもよく、この場合もそれぞれの画面の表現・描写部分が重ならないよう構成する。尚、上記の画面５ａの素地は不透明板或いは光線が透過する（僅かの透過も含む）素地で構成するものである。

【００１７】

第３実施例では、図３（ａ）に示すように面積が同じで素地が透明板例えばガラス板よりなる画面６ａ，６ｂ，６ｃのうち表側の画面６ｃに近距離の家７ｃのみを描写して、中間の画面６ｂに遠距離の山７ｂのみを描写し、裏側の画面６ａに最も遠距離の空と雲７ａのみを描写して、以上の各画面６ａ，６ｂ，６ｃを重ねて図３（ｂ）に示すように１枚の立体画面としたものである。これを壁に付けると家７ｃは前方に、山７ｂは後方に、はるか後方に空や雲７ａが見えて、そして各画像が透明板の透明度によってそれぞれが分離して見えるので各画像の遠近が構造的・物理的に明確に感じられ、見る人に立体感を与える。尚、この場合、画面６ａ，６ｂ，６ｃの各画像（表現・描写部分）は重ならないように

構成する。また、この実施例における画面６ａの素地は不透明板或いは光線が僅かに透過する素地で構成してもよい。

【００１８】

第４実施例では、図４（ａ）に示すように空と雲９ａと山９ｂと家９ｃを描写してある素地が不透明板よりなる画面８ａの表面に、空と雲９ａより近距離にある山９ｂと家９ｃのみを描写した素地が透明板例えばガラス板よりなる画面８ｂを重ねて、更に該画面８ｂの表面に最も近距離にある家８ｃのみを描写した素地が透明板例えばガラス板よりなる画面８ｃを重ねて図４（ｂ）に示すように１枚の立体画面としたものである。この場合も前記実施例と同様に空と雲９ａ、山９ｂ、家９ｃの各画像が透明板の透明度によってそれぞれ分離して見えるので各画像の遠近が構造的・物理的に明確に感じられ、見る人に立体感を与える。尚、画面８ａの素地は光線を透過する（僅かの透過も含む）素地で構成してもよい。

【００１９】

第５実施例では、図５（ａ）に示すように前記第３実施例の図３（ａ）と同じ画面６ａ，６ｂ，６ｃにおいて表側の画面６ｃに任意物象や任意宣伝ロゴや任意文字を表現・描写したもので、例えば宣伝したい商品や商品名などの文字１０のみを描写したもので、図５（ｂ）に示すように画面６ａ，６ｂ，６ｃを重ねて１枚の立体画面としたものである。このように上記の表側の透明板に宣伝する商品や文字を描写して構成すると、該商品や文字が透明板の厚みに比例して立体的に飛び出ているように浮いて見えて目立ち、人の目を引きつける。即ち、画面の宣伝広告機能が格段に向上する。

【００２０】

第６実施例では、図６（ａ）に示すように例えば遠距離の空と雲１１ａを描写した画面１２ａの表面に、近距離の山１１ｂを描写してその山１１ｂの形に切り抜いた素地が透明板例えばプラスチック板よりなる画面１２ｂを重着し、更にその山１１ｂの画面１２ｂの表面に、最も近距離の家１１ｃと地面１１ｄを描写してその家１１ｃと地面１１ｄの形に切り抜いた素地が透明板例えばプラスチック板よりなる画面１２ｃを重着して、図６（ｂ）に示すように１枚の立体画面としたものである。即ち、重ねる１枚或いは複数枚の各画面のそれぞれの面積が異なったもので構成する。この例では家１１ｃ、山１１ｂ、空と雲１１ａのそれぞれが透明板の透明度によってそれぞれが分離して見える結果、家１１ｃ、山１１ｂ、空と雲１１ａの遠近が構造的・物理的に明確に感じられて立体的な画面となる。即ち、制作者が画面中に遠近感と立体感を従来以上に表現できる。尚、上記の画面１２ａの素地は不透明板或いは光線が透過する（僅かの透過も含む）素地で構成するものである。

【００２１】

次に第６実施例の他の実施例を示す。この実施例では、図７（ａ）に示すように例えばたばこの箱１３ａの正面像とその背景１４を描写した画面１５ａの表面に、該たばこの箱１３ａと同じたばこの箱１３ｂを描写してそのたばこの箱１３ｂの形に切り抜いた素地が任意の厚みの透明板例えばガラス板よりなる画面１５ｂを、たばこの箱１３ａとたばこの箱１３ｂが重なるように重ねて図７（ｂ）に示すように１枚の立体画面としたものである。この例でもたばこの箱１３ｂと背景１４のそれぞれが透明板の透明度によってそれぞれが分離して見える結果、たばこの箱１３ｂが背景１４より浮き上がって見え、且つ画面１５ｂのたばこの箱１３ｂの正面の幅と高さと同時にその厚さも感じることになり、たばこの箱１３ｂと背景１４の遠近が構造的・物理的に明確に感じられて立体的な画面となる。即ち、制作者が画面中に遠近感と立体感を従来以上に表現できる。尚、上記の画面１５ａの素地は不透明板或いは光線を透過する（僅かの透過も含む）素地で構成するものである。

【００２２】

尚、上記の２例の実施例において画面１２ｂ，１２ｃ又は１５ｂのように任意の画像の形に切り抜いてそれぞれ面積が異なった画面を、上記の２実施例のそれぞれの立体画面の表面に更に１枚或いは任意枚数を重ねて構成してもよい。また、上記の画面１２ｂ，１２

ｃ又は１５ｂの素地を１例としてプラスチック板、ガラス板としたが、不透明板や僅かに光線が透過する素地、例えば紙、布、キャンバス、プラスチック板、セラミックス、陶磁器等で代位してもよいものである。

【００２３】

第７実施例では、図８に示すように上記した本発明の全ての立体画面１６において、その立体画面１６を構成する全ての画面、即ちその重なっている複数枚の画面の全てを透明板の素地よりなる画面とし、この重なっている本発明の立体画面１６の裏面１７に任意の光源で例えば蛍光灯１８で光線１９を照射させて立体画面１６の表面２０まで光線１９を透過させたものである。このようにすることで画面が明るくなると同時に透明板の透明度によってそれぞれの画面が分離して見える結果、上記した種々の立体感や遠近感や量感を一層鮮明に表現することができる。尚、上記した重なっている複数枚の画面の全てを、僅かに光線が透過する素地、例えば紙、布、キャンバス、プラスチック板、セラミックス、陶磁器等で代位してもよい。

【００２４】

本発明の実施例である第８実施例では、図９（ａ）に示すように上記した第７実施例での立体画面１６において、その表面２０に描写されたうちの任意部分に光線１９を透過させるものであって、本実施例ではその任意部分を図９（ｂ）に示す人物像２１の部分とすれば、この立体画面１６の表面２０の人物像２１の部分に光線１９を透過させるために、図９（ｃ）に示すように立体画面１６の裏面１７の人物像の裏部分２２以外の部分を遮光材２３で遮光２４して、そして図９（ａ）に示すように該立体画面１６の裏面１７に蛍光灯１８等の任意光源の光線１９を照射させて立体画面１６の表面２０の人物像２１の部分のみに光線１９を透過させたものである。このようにすることで上記の第７実施例の効果に加えて、人物像２１部分のみが生気溢れてまぶしいほどの生き生きとした存在感のある人物像２１となって立体的に鮮明に浮き上がって見える。また、目立つことになり、人目を引きつけ、宣伝機能を格段に向上させる。このように制作者は従来不可能であった画面中に例えば絵画ではない本当の光の後光がさした神々しい神仏像や生気溢れて生き生きとした存在感ある人物像等を立体的に表現や再現することができる。

【００２５】

尚、上記の光線１９の透過を自然光や弱い電灯などで弱くすると生気溢れて生き生きした人物像２１等が表現でき、また、アーク灯などで強くすると見る人に向かって光線を放つ神々しい神仏像などを表現することができる。また、上記の遮光材２３及び遮光２４の方法は、光線１９を完全な遮光からファジーな遮光までの遮光するものであればどのような材料や方法を用いてもよいものである。例えば、カラーポジ画像フィルム（スライド用フィルム）なども用いて遮光してもよいものである。また、上記の第７実施例やこの第８実施例の光源を蛍光灯１８としたが、白熱灯、アーク灯、ローソク、ネオン、発光ダイオード（ＬＥＤ）、カラー液晶ディスプレイ、ブラウン管、太陽光などあらゆる光源を用いることができる。

【００２６】

第９実施例では、図１０（ａ）に示すようにガラス板等の光線が透過する素地（紙、布、キャンバス、プラスチック材、セラミックス、陶磁器等僅かに光線を透過するものも含む）よりなる一枚の画面２５の表面２６に描写されたうち任意部分に光線１９を透過させるものであって、本実施例ではその任意部分を図１０（ｂ）に示す顔２７の部分とすれば、この画面２５の表面２６の顔２７の部分に光線１９を透過させるために、図１０（ｃ）に示すように画面２５の裏面２８の顔２７の裏部分２９以外の部分を遮光材２３で遮光２４して、そして、図１０（ａ）に示すように該画面２５の裏面２８に蛍光灯１８等の任意光源の光線１９を照射させて画面２５の表面２６の顔２７の部分のみに光線１９を透過させたものである。このようにすることで、生気溢れてまぶしいほどの生き生きした存在感ある人物の顔２７となって立体的に鮮明に浮き上がって見える。また、目立つことになり人目を引きつけ宣伝機能を格段に向上させる。このように制作者は従来不可能であった画面中に絵画ではない本当の光の後光がさした神々しい神仏像や生気溢れて生き生きとした

存在感のある人物の顔等を立体的に表現や再現することができる。

【００２７】

尚、上記の光線１９の透過を自然光や弱い電灯などで弱くすると生気溢れて生き生きした顔２７などが表現でき、またアーク灯などで強くすると見る人に向かって光線を放つ神々しい神仏像などを表現できる。また、上記の遮光材２３及び遮光２４の方法は光線１９を完全な遮光からファジーな遮光までの遮光するものであればどのような材料や方法を用いてもよいものである。例えばカラーポジ画像フィルム（スライド用フィルム）なども用いて遮光してもよいものである。また、上記の実施例では光源を蛍光灯１８としたが、白熱灯、アーク灯、ローソク、ネオン、発光ダイオード（ＬＥＤ）、カラー液晶ディスプレイ、ブラウン管、太陽光などあらゆる光源を用いることができる。

【００２８】

第１０実施例では、上記した全ての実施例における画面２５或いは重なっている各画面即ち画面３ａ，３ｂ，５ａ，５ｂ，６ａ，６ｂ，６ｃ，８ａ，８ｂ，８ｃ，１２ａ，１２ｂ，１２ｃ，１５ａ，１５ｂのうちの任意画面の任意部分に蛍光顔料などの発光物質を添加或いは混入或いは塗着させたもので、例えば第１実施例での画面３ｂのたばこの箱１ｂの部分や、第３実施例での画面６ａの空と雲７ａの部分又は第４実施例での画面８ｂの家９ｂの部分又は第８実施例での人物像２１の部分又はその人物像２１の裏部分２２の部分又は第９実施例の顔２７の部分又はその顔２７の裏部分２３の部分など各画面（重なっている画面では重なっている各画面のうちの任意画面）の任意部分に蛍光顔料などの発光物質を添加或いは混入或いは塗着させたものである。尚、上記の発光物質は蛍光顔料や自発光物質など発光する物質であればよい。このようにすることで、例えば該発光物質が蛍光顔料ならば画面の表面や裏面から受けた可視光線や紫外線で蛍光を放ち、或いは該蛍光物質が自発光物質ならば、その自発光物質に添加されている放射性同位元素の刺激で常時発光して、後光がさして神々しく輝いて鮮明な神仏像や鮮明に輝いて生気溢れて生き生きとしたリアルな人物像や鮮明に輝いて浮き上がって目立つ商品像となり各画像は立体化する。

【００２９】

尚、上記した種々の画面における裏側の画面（例えば上記実施例の画面３ａ，５ａ，６ａ，６ｂ，８ａ，８ｂ，１２ａ，１２ｂ，１５ａや裏面１７，２８）に実施すれば、本立体画面の表面の裏より発光するので底光りした発光になり、例えば人物の肌などが生き生きした生気溢れてリアルな肌になり、且つ浮き上がって見えるので立体化し、制作者は上記した各実施例に併用すれば上記した各実施例での種々の効果をより一層高めることができる。

【００３０】

尚、上記の全ての実施例では本発明立体画面を構成する全ての画面、即ち、画面２５或いは重なっている各画面３ａ，３ｂ，５ａ，５ｂ，６ａ，６ｂ，６ｃ，８ａ，８ｂ，８ｃ，１２ａ，１２ｂ，１２ｃ，１５ａ，１５ｂのそれぞれの表面に物象を表現・描写しているが、それぞれの素地が透明板で構成された場合はそれぞれの裏面に表面から透けて見えるように物象を表現・描写してもよいことは勿論である。また、上記全ての実施例において、各立体画面の表側の画面の表面に、更に物象を表現・描写していない透明板を重ねてもよい。また、上記全ての実施例での全ての画面や本発明の全ての画面は、写真・絵画・看板・表示板・ポスター・漫画・グラフィック・デザイン・カラーポジ画像フィルム画（スライド用フィルム画）・イラストレーション・設計図・図・図案・模様・グラフ等のあらゆる画面そのものでもよいし、また、本発明の全ての画面には写真の焼き付け、貼りつけや印刷或いは絵の具等による絵画の描写や印刷或いはペンキ等による広告・描写その他グラフィック・デザイン、コンピュータ・グラフィックス、彫刻等物象を表現・描写するあらゆる手段を用いて画面を構成してもよいものである。即ち、本発明はあらゆる種類の全ての静止画面に応用できるものである。また、上記の第１，２，３，４，５，６実施例では各画面３ｂ，５ｂ，６ｂ，６ｃ，８ｂ，８ｃ，１２ｂ，１２ｃ，１５ｂのように重なる画面は１枚或いは２枚として構成しているが、これに限定されず更にそれぞれ１枚以上

任意枚数の画面を重ねて構成すればより立体的効果が向上する。また、上記の全ての実施例において、光線が透過する素地や透明板とは、ガラス板・プラスチック板・セラミック板・陶磁器・紙や布のシート・フィルム・枠等で光線が透過すればどのようなものでもよいものである。尚、上記の各実施例に示した本発明の全ての立体画面は平面状に構成してあるが、これに限定されず筒状、球状、壷状等のあらゆる形状で構成できるものである。尚また、上記の第７，８，９実施例の光線１９の照射は常時照射だけでなく、点滅照射や間欠照射でもよく、宣伝広告効果を向上させる。

【図面の簡単な説明】

【００３１】

【図１】（ａ）は第１実施例を示す分解斜視図、（ｂ）は全体斜視図である。

【図２】（ａ）は第２実施例を示す分解斜視図、（ｂ）は正面図である。

【図３】（ａ）は第３実施例を示す分解斜視図、（ｂ）は正面図である。

【図４】（ａ）は第４実施例を示す分解斜視図、（ｂ）は正面図である。

【図５】（ａ）は第５実施例を示す分解斜視図、（ｂ）は正面図である。

【図６】（ａ）は第６実施例を示す分解斜視図、（ｂ）は正面図である。

【図７】（ａ）は第６実施例の他の実施例を示す分解斜視図、（ｂ）は全体斜視図である。

【図８】同上の第７実施例を示す縦断面図である。

【図９】（ａ）は本発明の実施例である第８実施例を示す縦断面図、（ｂ）は表面の正面図、（ｃ）は裏面の正面図である。

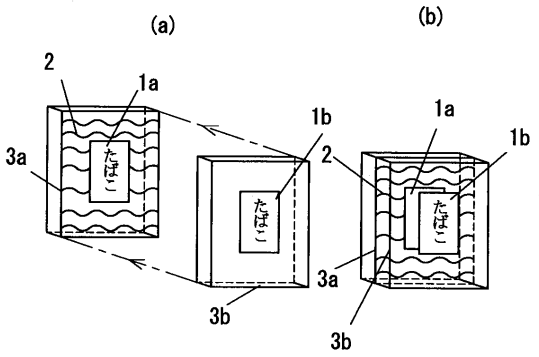
【図１０】（ａ）は第９実施例を示す縦断面図、（ｂ）は表面の正面図、（ｃ）は裏面の正面図である。

【符号の説明】

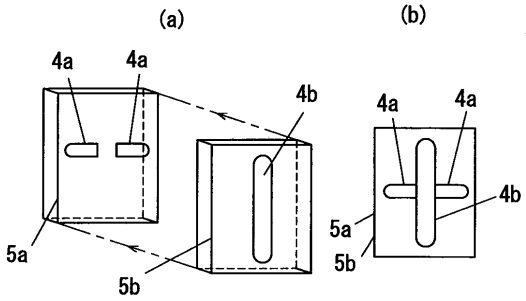
【００３２】

１９　光線
２５　画面
２６　表面
２８　裏面

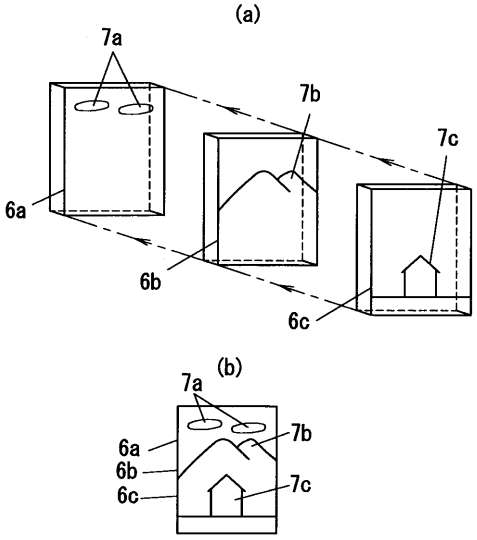
【図１】


(a)
(b)
2
1a
1b
3a
たばこ
3b

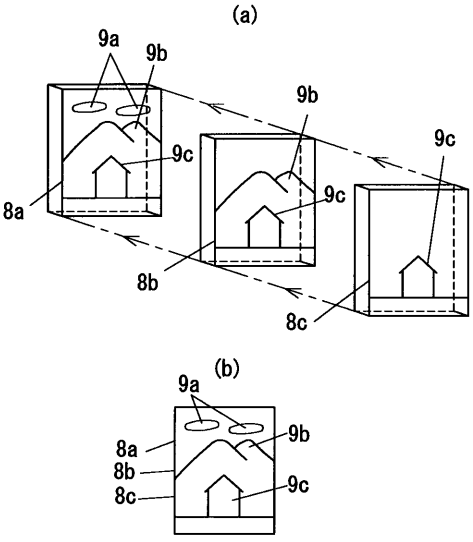
【図２】


(a)
(b)
4a
4b
5a
5b

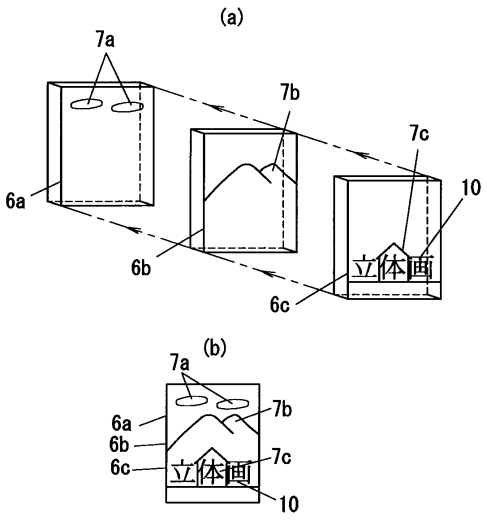
【図３】


(a)
7a
7b
7c
6a
6b
6c
(b)

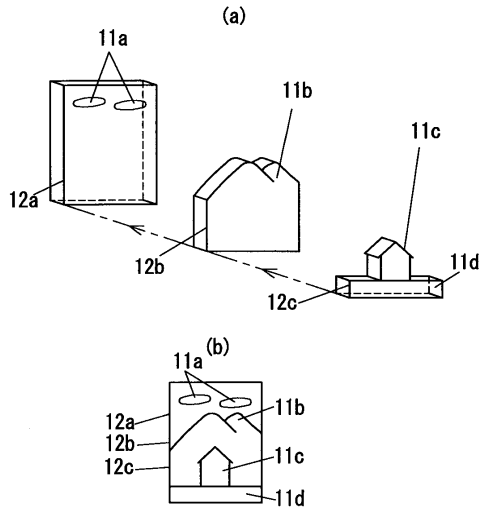
【図４】


(a)
9a
9b
9c
8a
8b
8c
(b)

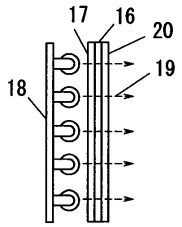
【図５】


(a)
7a
7b
7c
6a
6b
6c
10
立体画
(b)

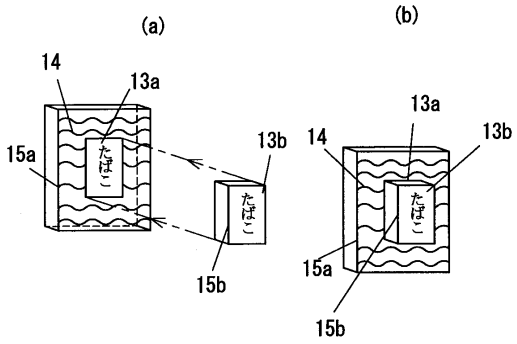
【図６】



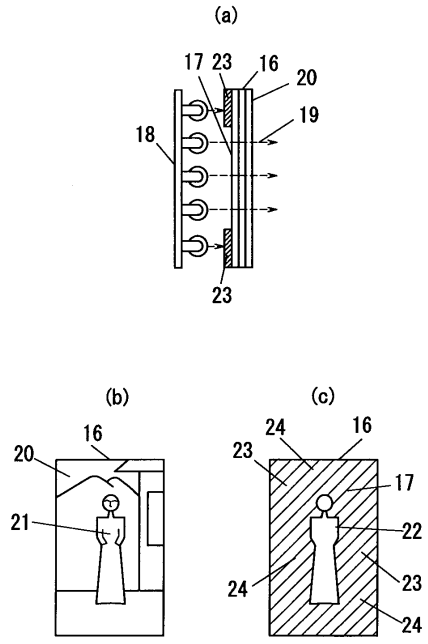
【図８】



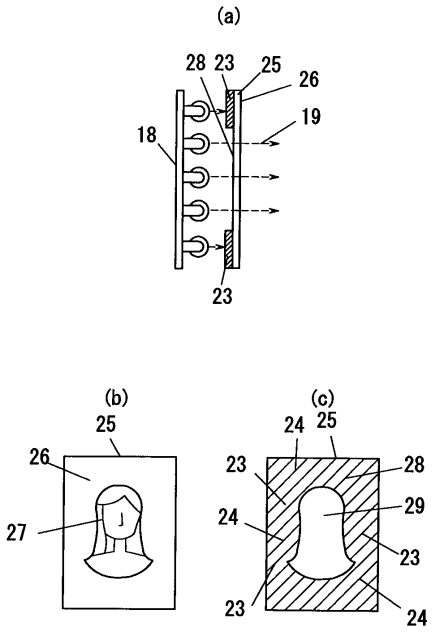
【図７】



【図９】



【図１０】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開平１０－１３３６０４（ＪＰ，Ａ）
実公平０１－０１６１２７（ＪＰ，Ｙ２）
実開平３－２４６９２（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ｇ０９Ｆ １３／００ － １３／４６
Ｂ４４Ｃ ５／０８
Ａ４７Ｇ ３３／００ － ３３／０２